

愛高組新聞

JTU RENTAI

発行所 〒460-0017 名古屋市中区松原二丁目 10-3 愛知社会文化センター内

愛知公立高等学校教職員組合

<http://www.ne.jp/asahi/jtu/aikoso2/>

TEL 052-684-4312

FAX 052-684-4314

rentai@aqua.ocn.ne.jp



URL



e-mail



海蔵川の桜（三重県・四日市市）

魅力ある教育現場を目指して

【私たちの生活は】

この数年、賃金の上昇は続いていますが、物価の上昇がそれを上回り、私たちの生活改善にはつながっていません。

【教育現場は】

多忙化解消・働き方改革が叫ばれるようになって10年が経過しようとしています。正規の勤務時間を超える在職等時間は文科省や県教委の集計では減少傾向にあると報告されていますが、個々の教員が申告している在職等時間が実態と一致せず、過少申告されているとの指摘もあります。わたしたちが行っている調査でも、「働き方改革が進んでいるとは実感できない！」という声が多く聞かれます。

今年の1月に教職調整額が4%から5%に引き上げられ、今後1年毎に1%ずつ引き上げ、2031年1月には10%まで引き上げられます。しかし、これは、私たちが求めてきた「働き方改革」及び適正な超過勤務手当の支給とはかけ離れたものであり、これまでの長時間労働を容認するものでしかありません。

【教職員組合の課題は】

慢性的な人手不足に加え、進まない業務削減により若者の教職離れが進み、採用試験の倍率が低下し続けています。今後の学校教育の質を維持・向上させていく上で、早急に有効な手を打たなければなりません。

教職員組合の課題の一つは、「子どもたちの豊かな学びを保障する」ことです。子どもたちの学習環境の整備・改善と、それを担うわたしたち教職員の労働環境の整備・改善は、一体不可分のものです。これらの実現には、多くの仲間の力の結集が必要です。

【私たち愛高組は】

愛高組は、愛知の県立学校に勤める教職員で組織された日本教職員組合（日教組）に加盟する組合です。私たちは、この春、新たに仲間に加わった皆さんと共に、「子どもたちの未来」のために、それぞれの持ち場で、子どもにとっても働く教職員にとっても「魅力のある教育現場」の実現を目指して努力を続けて参ります。より一層のご支援をお願いします。

日教組第115回臨時大会

日教組は3月18日、第115回臨時大会を開催し、当面のとりくみ等を決定するとともに、26・27年度の役員選挙を行い、梶原委員長を再任しました。

JTU 日教組第115回臨時大会



【当面のとりくみの一部 (委員長挨拶から)】

東日本大震災・東電福島原発事故から15年、「熊本地震」から10年、「能登半島地震」から2年が経過した。それぞれの地で子どもたちに寄り添い、復旧・復興に携わりながら勤務する仲間のみなさんに敬意を表する。引き続き「核と人類は共存できない」ことを訴えながら、教育予算確保、防災・減災教育にとり

くんでいく。世界で拡大する戦禍により、多くの命が犠牲になっている。「平和・人権・環境・共生」を軸にした日教組運動を前にすす

め、EIにおいて世界の仲間と連携して、国際法の下、対話による解決の重要性を世界に訴えていく。私たちが運動を前にすすめることが、子どもたちへの

責任を果たすことにつながる。

教職員がじっくり考える時間が必要である。昨年12月の日教組働き方改革意識調査の結果では、勤務記録が必ずしも正確に記録されていない状況が確認された。今後、持ち帰り仕事も含めて、正確に勤務が記録されるよう求めていかなければならない。引き続き、業務削減、定数改善、給特法の廃止・抜本的見直しを求め、学校の働き方改革を重点方針としてとりくんでいく。

学習指導要領改訂にむけて、現在、中教審教育課程部会の教科領域におけるワーキンググループで議論がすすんでおり、「調整授業時数制度」による負担軽減も議論されています。引き続きカリキュラム・オーバードの実態を訴え、負担軽減につながるよう意見反映を継続していく。

組織拡大・強化については、世界中の仲間が民主教育を守るためにふんばり、運動の前進と組織拡大に注力している今こそ、組織拡大に注力していく必要がある。

2026年度定期人事異動内示を終えて

3月13日、26年度の定期人事異動内示があり、午後6時までには組合員の異動状況の集約を終えました。

翌14日午後3時から教職員課を招いて、今回の異動概要の聞き取りを行うとともに、愛高組から提出した異動希望について、課題を整理し教職員課と確認を行いました。

【異動概要】(内示日時点)

異動件数は881件で、昨年を4%弱上回りました。新規採用者は453人で昨年の0.85倍となりました。

新採経過6年以上、同一校10年以上の異動については、下表のとおりで、対象人員に対する異動率は37.9%で、昨年より

8ポイント高くなっています。

【再任用】

再任用者の実数は701人で、25年度末は定年年齢による退職者がいないことから大きく減少しています。

【男女共同参画】

女性管理職登用は、校長に15(前年15)人、教頭に18(同16)人が新たに任用されました。女性校長の数は全体で45(同37)人となり、昨年度より2割増となりました。女性教頭の数は全体で71(同75)人で、昨年度より約5%減っています。

【役職定年】

定年が延長されても管理職は60歳で役職を降ります。今年度は校長19人(役職定年者の

内示日時点

2026年度県立学校人事異動概要

	退職 退任	新任	転任	
校長	42 (23)	45 内女性 15	22	女性校長は全体で45人
教頭	18 (7)	58 内女性 18	49	女性教頭は全体で71人 登用試験受験者103 合格67 任用45
教諭	179 (179)	453	810	()は役職定年とともに退職 または定年前退職者
同一校10年以上	263	新採経過6年以上	160	
重複者34人を除く異動者の数は389人、55歳以上を除く対象人員1,026人に対する異動率は37.9%				
再任用 701	年齢は25年度末 60歳 3(-), 61歳 9(-), 62歳 223(170), 63歳 257(158), 64歳 209(102) ()はフルタイム			

45%)、教頭11人(同61%)が教諭として働き続けます。

きょと本気 スクールのA.Y



駐車場使用における 通勤手当の加算

本年4月からパーク&ライドの駐車料金が通勤手当と認定されることになりました。

支給要件

- ① 通勤に自動車等の使用が常例である(少なくとも1か月以上継続)。
- ② 一般に利用し得る最短の経路が片道2km以上である。
- ③ 勤務公署の周辺、通勤経路上の駅・停留所等の周辺にある駐車場等を使用。

支給額(上限15千円)

1か月当たりの利用料金に相当する額。

※ コインパーキングは、1往復当たりの利用料金×1か月当たりの平均通勤所要回数

額。

複数利用している場合は、それぞれの合計額。

原動機付自転車も対象。

自転車・自宅駐車場は対象外。

提出書類

- 契約書(写)
- 事実発生月分の利用料金の支払を確認できる書類(通帳、領収書等)

れ ん ら く

東日本大震災発生から早や15年経ちました。東電福島第一原子力発電所は最高レベルに危険な事態に至り、廃炉が見通せない模様です。一方、事故の危険度に目をつぶり、原発再稼働などの動きも出ています。

愛高組は、被災地の一日も早い復興と被災された方々の安心を心よりお祈りします。

◎ これからのおもな運動の日程

- 4/28(火) あいち平和フォーラム第1回運営委員会
- 5月中旬 新採用者勧誘行動
- 5/15(金)~5/17(日) 沖縄平和行進
- 6/6(土) 全県会議
- 7/11(土) 愛高組第38回定期大会

赤ペン 5665

先の総選挙で与党が絶対多数を占めて、憲法改正への動きが現実味を帯びてきている。日本がいよいよ「戦争のできる国」になつてしまふのかというような懸念の声も出ているものの、選挙結果は民意であり、世論の動向が大きく変化している現実を認識しなければならぬ。

国民世論の形成に学校教育が果たす役割が大きいことは誰しも否定しない。この前提に立つなら、戦後一貫して推進されてきた平和教育のあり方が問い直され

ているのではないのかと思えてくる。とりわけ近年、大國による「力による現状変更」がまかり通る国際情勢の下では従来型の反戦平和教育では説得力に欠けると言わざるを得ない。

とりわけ直結する題材を取り扱う公民科や地歴科では、国際関係の単元と現代史に相応な時間を充てて、客観的な事実認識に基づく判断力を養成する責務を担うが、授業進度によつては割愛される事が多いようである。こつした点を含めて授業のあり方を総点検する必要がある。(H)

遺珠点点 95

今でも交流がある学生時代の友人が7人いる。住んでいる場所はバラバラ、それぞれ、結婚、出産、離婚、介護、看取り……とたくさん

のこを経て歳をとつてきた。今ではもちろん第一線を退いた者ばかりだが、この中で私ともう一人都内に住むAさんが仕事を持っていた。

そのAさん、この3月半ばで退職した。まだ働いてほしいと慰留されたのに、どうしても今決断しなければならぬことがあると退職に踏み切った。彼女は、体力を考えると「今しかない」と私に電話してきて言った。

「サンチャゴ巡礼の道を歩く」 フランスからの道、ポーからピレネーを越えて西へ西へ、サンティアゴ・デ・コンポステーラまでおよそ八〇〇キロ「カミーノ・デ・サンティアゴ」を歩くのだ。

彼女も私もキリスト教徒ではないけれど、いつかこの道を歩けたらいいなと学生時代から言い合っていた。それはもう「いつか」と言った時点で、迷子のような夢と思つていたけれど、人生の終盤に彼女は夢を脳床から拾い上げて実現させるという。立派だ。

尊敬の気持ちをこめて、「Buen Viaje-」と言葉を贈った。



「スペイン語はまだでんでダメなんだけどね」と彼女。「大丈夫、あらゆる国の人が歩いているんだから、英語で十分だと思うよ」と私。

彼女は学生時代、「放浪部」というサークルに所属していた。目的も決めず集いたい人が集まつて、何となくどこかへ繰り出すという一風変わった活動グループだった。

彼女の卒論も放浪の俳人「種田山頭火」だった。その頃も今も、本当に強い本物の自由を知っている人だなと私は思っていた。

つれづれにいろいろなことを思い出してしまつたが、これで、友人たちが「集まりましょう」という時、「仕事」という言葉を使うものは私一人になった。

その「仕事」、私は、いつも辞めたいと思つている情けない人間なのだが、外国人支援で関わる生徒たちの熱意と懇願にほだされて続けている。

「さ〇〇ちゃん、どうせ見えないだろうから、最近私がすつごく感動した動画送つとくわ、暇なとき見て感動して」そう言つて、Aさんは電話を切つた。その動画がパソコンに送られてきている。

スポーツ音痴だけれど、その演技はとてきれいで、素晴らしいと思ひながら見た。流れる曲も印象的、途中からカンテ(歌)が入るのがまたよかつた。そして、あれ?と驚いた。歌詞が解るのだ。

歌っているのはイタリア語だが、それは、私が多少理解できるスペイン語とかかなり似ている部分がある。「エラデントロテ」と始まつた時、「それは君自身の中に

ある」と私は理解していた。「ソルタンソンソグノ(ただの夢)……クレディンテ(自分を信じる)……ノデイメンテイカレセ(君し

かない)」 切れ切れにわかるのだが、自分を信じるようにと歌っている内容だ。感動的だったのは、クライマックスの歌い上げだ。「ノンアレンドルテイマイデイペンデラソルタントダテ(諦めるな 人に求めるな君自身だ)」

外国人支援の制度が始まつた時 私はまだ現役だったけど、ボリビアの子の支援でスペイン語を及ばずながら勉強した。モノになつたとは思ひがけず、「あ、何となくわかる」という感覚を持てる喜びがよみがえつた。支援の仕事というだけでなく、自分もまたこの仕事に応援されているのだと思つた。(C)